

新たな栽培技術を活用した 持続可能な農業経営の確立



対象地区：当麻町緑郷1-1区・1-2区（8戸）

成果の要約

水稲栽培における労働負担軽減を目的に、省力化栽培技術（高密度は種栽培・直播栽培・疎植栽培）の展示ほを設置し、技術導入の検証・情報共有を図りました。これにより、地区内2戸で高密度は種栽培への全面移行や、疎植栽培の本格的な導入による余剰ハウスの活用など、新たな展開が広がりました。また、ミニトマトの着色不良果対策として、減光・遮光資材を活用することで、着色不良果軽減の道筋をつけました。

課題の背景

- ・戸別完結型農業指向が強く、家庭内労働力に依存し、作付け規模に対し慢性的な労働力不足
- ・米価下落により、持続的な稲作経営において、更なる低コスト化・省力化が不可欠
- ・近年、ミニトマトの着色不良果（ベースグリーン）が発生し、歩留まり低下・収穫作業の効率低下が問題になっている

品目が多い、人手が足りないな

春から秋まで忙しい

米だけじゃ収入が…

重労働がキツくなってきた

活動の経過

…省力化技術導入による労働軽減…
水稲の省力化について検討し、R3より作業が錯綜する春先の労働負担軽減を提案してきました。R4も継続し以下の項目を提案しました。

省力技術やってみるか

将来見据えて省力化どうですか？

①高密度は種栽培の推進 「育苗作業時間短縮・育苗面積削減」

ポイントは種量は

乾籾300g/箱 クリア

これは楽だ

苗が減らないよ

区分	育苗日数	10a当たり必要箱数
高密度は種	14~21日	13~15箱
中苗マット	30~35日	34~40箱
成苗ポット	30~35日	49~56箱

②直播栽培（ドローン散播）の導入 「育苗作業不要」

は種精度が極めて高い

かなり均一

条播

ドローン散播

将来はコレだよ！

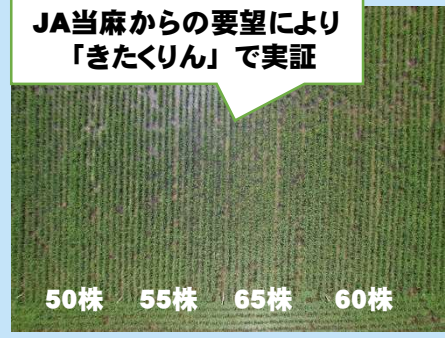
③ 疎植栽培の推進 「育苗面積削減」

「きたくりん」は主力品種ですからね



「きたくりん」の疎植はどうだろう？

JA当麻からの要望により「きたくりん」で実証



株数/坪	株間	10a箱数
65株（慣行）	15.4cm	44箱
60株	16.7cm	41箱
55株	18.2cm	37箱
50株	20.0cm	34箱

新たな投資が、少ない点がGOOD.

…若手・女性農業者のスキルアップ…

① ミニトマトの着色不良果対策

ベースグリーンの発生は少ないかな？



光分散ビニールの効果はどんなの？



自発的に増設したよ



活動の成果

…省力化技術導入による労働軽減…

① 高密度は種栽培の推進

- ・ 15箱/10a（成苗ポット50箱/10a）で移植するため70%削減可能。
- ・ 収量は、中苗マットと同程度を確認。

- ・ Iさんは、自信を深めR5より全て高密度は種栽培に移行。
- ・ 現在育苗ハウス12棟→6棟に削減する見込みです。

育苗ハウス半減

③ 疎植栽培の推進（2年目）

- ・ 収量は65株/坪（慣行）に対し、60株・55株/坪は差が無いことを確認。
- ・ Kさんは、水田面積28ha中、14haを疎植で栽培し、育苗ハウス1棟（83坪）が不要となりました。

- ・ R5は、空いたハウス1棟をすいか栽培とし、販売額が40～60万円ほど増加する見込みです。

省力化の有効活用

② 直播栽培（ドローン散播）の導入

- ・ 収量は条播664kg/10a、ドローン散播700kg/10a。
- ・ ドローンは、は種作業の他、本田作業を1台で行えることから汎用性に優れます。

- ・ 若手農業者を中心に注目度は高く、今後の導入拡大が見込まれます

ドローン散播 獲れ過ぎ

…若手・女性農業者のスキルアップ… ミニトマトの着色不良果対策

- ・ R4の着色不良果は、前年に比べ減少しました。天候条件が異なることも影響したと思われませんが、R4の取り組みによる改善もあったと考えます。

- ・ 普及センター側からの提案以外に農業者独自の対策が追加されるなど、着色不良果の理解が進んだと考えます。

原因解明まで もう少し

今後の対応

- ① 省力化に向けた支援を推進します。また経済性を検証し、省力化の有益性を見える化します。
- ② 着色不良果対策の効果を検証し、発生減少に向けた取り組みを推進します。